

令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金事業（旧地方創生推進交付金事業  
及び旧地方創生拠点整備交付金事業）の効果検証に関する調査

第3回 検討委員会

日時	2023年12月18日（月） 10:00～12:00		
場所	オンライン（有限責任監査法人トーマツ 17階会議室）		
委員	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授 赤井伸郎 委員 公益財団法人交通協力会 常務理事 石堂正信 委員 武庫川女子大学 教授 金崎健太郎 委員 法政大学現代福祉学部 教授 関司直也 委員 千葉商科大学 基盤教育機構 准教授 田中信一郎 委員 一橋大学大学院 法学研究科 教授 辻 琢也 委員 福井県立大学 地域経済研究所 特命教授 松原 宏 委員 株式会社 JR 東日本びゅうツーリズム&セールス顧問 見並 陽一 委員 (50音順)		
内閣府	内閣府地方創生推進事務局 白水参事官、小比類巻参事官補佐、猪俣、梅本、柴山		
事務局	有限責任監査法人トーマツ 齋藤、奥田、森、根元、角田、宮田、井樋、梅野		

【議事要旨】

今年度の効果検証業務の途中報告について事務局より説明し、それを踏まえた委員の意見交換を行った。議事ごとの委員の主な意見は次のとおり。

1. 前回検討会の振り返り

- 自立化については、事業分野の特性が違っているのではないかと考えており、分野別でまずはそれを捉えていく分析する必要があるのではないかと。

2. 報告書（骨子案）について

（特になし）

3. 事業実施報告の分析（分析結果報告）について

- 効果検証について、「実施した」と回答しているものの、現地調査にて実際の取り組みについて調査すると効果検証として相応しい検証方法なのか悩ましい事例もあったため、どのような資料を用いて誰に報告したのか、外部と議会の両方で検証している自治体が多数ある中で、相互の評価が異なっていた場合はどのような対応になるのかなど、具体的に今後見ていく必要があると考える。

- 事例研究にて自立化と効果検証の相関関係が垣間見られたため、その辺りを普遍的に分析できるか気になった。今年度の自立化の議論と効果検証の在り方の議論を来年度以降も継続し、何か見える形にしていけたらと思う。
- 財源的な面から自立化を見ると、事業収入でやっていける事業は寧ろ例外的な事例であり、事業を継続するには地方財源をいれないと成り立たない事業が大半である。自治体に事業効果を理解してもらわないと継続的に地方財源を投入してもらうことはできないという中で、効果検証と自立化は非常に深い関連があるものだと考える。
- 事業内容によっては事業収入を得られるようになるまでに時間を要するものもあるため、内容によってはある程度の期間一般財源を投じる必要がある事業も存在する。また KPI においても交付金事業のアウトカムは効果がわかりやすく KPI を達成しやすい一方で、総合的なアウトカムは効果が出るまでに時間がかかる。そういった事業に対してどのような方針をとるのか、今後も議論を重ねていきたい。
- 効果検証を実施しているから事業が上手くいっていると捉えるのか、効果検証をしっかりとやることのできるような体制だからこそ、事業が上手くいっていると捉えるのかが重要ではないか。単純に効果検証すれば上手くいくという話ではなく、効果検証をしっかりと実施・対応できる組織だからこそ、事業も上手くいくのではないか。効果検証を単純に必ずやってくださいというのも重要であるが、それがどのように活かされているのか、ステークホルダー間に定着しているのかがより重要であると考える。
- 効果検証として何を実施することを求めているのか、示唆を自治体に与えていく必要があるのではないか。単に検証の実施を求めるだけではなく、PDCA サイクルに繋げる方法の示唆を提供していくべきではないか。
- 自立化の定義について、推進事業と拠点整備事業の間で違いはあるのかを今後示して欲しい。
- 維持管理費や更新費が自治体の後年度負担になっているのではないかとというのが気がかりである。一般財源が今後人口減少と共に減っていき、十分確保できない恐れがある中で事業が進められており、結果自治体の負担を増やしているのではないかと懸念がある。
- 依然として「産業活力の低下」や「地方の魅力低下」が課題として挙げられており、地方創生交付金事業を継続して行っているが、コロナ禍の影響などもあり、まだ課題が解決されていない印象である。

#### 4. 事例研究について

(特になし)

## 5. ガイドラインの改訂について

(特になし)

## 6. 統計解析の試行（途中報告）について

- 全ての自治体ではなく、人口規模等を考慮した分析の結果に期待したい。
- 最終的なとりまとめ方法については、今後の分析結果を踏まえて全体像を見てから議論したい。

以上